

諮問理由

本市教育委員会では、子どもの健やかな成長と学校教育の充実を第一義に教育環境のさらなる整備・向上に向け、これまで三次にわたる「枚方市学校規模等適正化審議会」（以下「審議会」という。）の答申、及び審議会の答申を踏まえ策定した「枚方市学校規模等適正化基本方針」（以下「基本方針」という。）に基づき、学校統合や通学区域の変更など、学校規模等の適正化に取り組んできました。

前回の審議会（第三次）においては、平成 22 年度から実施している「枚方市小中連携事業」をさらに強化・発展させる観点から、「一小一中」の接続関係への改善を優先的に取り組むにあたり、適正な学校規模や「一中一小」の配置・取組などの課題について審議会に諮問し、審議会からは適正な学校規模の範囲や「一中一小」の考え方、学校毎の「一小一中」の具体的な方策などについて、答申をいただきました。本市教育委員会では、この答申に基づき平成 24 年 2 月に「基本方針」を改定し、各年度において「実施プラン」をまとめ、「一小一中」の接続関係への改善や過密校の解消などに取り組みました。

この結果、「一小一中」の接続関係になっていない小学校は、残り 2 校となっており、うち 1 校は平成 26 年度の「実施プラン」において改善に取り組むこととしています。

本市は昭和 40 年代から 50 年代にかけて市内各地域で盛んに行われた住宅開発等により人口が急増し、児童生徒数の増加に伴い、ほぼ毎年のように小中学校の分離・開校が行われました。

その結果、小学校児童数は昭和 57 年度に 45,573 人、中学校生徒数は昭和 61 年度に 22,550 人と最大になり、小学校は昭和 59 年度に 47 校、中学校は昭和 61 年度に 20 校となりました。その後、児童生徒数は減少に転じ、平成 26 年度には小学校児童数は 22,363 人、中学校生徒数は 11,194 人と、ピーク時から概ね

半減しました。学校数については、平成 12 年度に小学校 2 校、平成 13 年度に中学校 1 校を統合し、現在に至っています。

このような中、平成 26 年 1 月に発表された「枚方市人口推計調査報告書」によると、本市の人口は平成 55 年に約 32 万 7 千人と現在（平成 26 年 5 月 40 万 8 千人）に比べ 8 万人以上減少すると予測され、児童生徒数も少子化の影響を受けて更に大幅な減少が推測されます。

については、今後、小規模校が増加し、さらには著しい児童生徒数の減少により、学校運営に支障を及ぼす学校が現れることが懸念されます。

一方、前述の人口急増期に建設した多くの学校施設は、建築後相当年数が経過し、経年劣化による老朽化の進行により、施設の更新が必要となっているなどの課題もあります。

これらのことから、今後も本市小中学校における良好な教育環境の確保を図るため、次の事項について、審議をお願いいたします。

（諮問事項）

（1）市立の小学校及び中学校の配置等の適正化に関する事項

- ・ 将来における適正な配置等のあり方について